

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)	◎	一般小売店〔酒〕（経営者）	・年末年始を迎えて、売上が増加することを期待している。
	○	商店街（代表者）	・103万円の壁の引上げや減税が実現することになれば、今後の景気は上向きになる。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	・物価が予想以上に上昇しているものの、給与も上がっているため、今後の景気はやや良くなる。観光客が増加傾向にあることもプラスである。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	・今後については、冬の観光シーズンとなるため、客が増えることになる。インバウンドは、特に中国方面の便数の回復が遅れているため、前年並みにとどまるとみられるが、円安を追い風に客単価が上昇することを期待している。
	○	百貨店（販売促進担当）	・年末年始から春節にかけてインバウンドの増加が見込まれる。地元客はまだ購買意欲が低いものの、クリスマスや年末年始のイベントに向けて消費が上向くことを期待している。
	○	スーパー（役員）	・正月のおせちなど、料理の予約が前年を2割ほど上回っている。また、今年の年末は帰省客が増えることで消費が活発になると期待している。
	○	家電量販店（店員）	・年末商戦や初売りなどのイベントで来客数の増加が見込まれることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・今後については、生産量が徐々に回復することで、受注量及び販売量が上向くと期待している。新車への期待感が高いこともプラスである。
	○	旅行代理店（従業員）	・国内航空需要が堅調なことに加えて、冬季の航空便の運航スケジュールにおいて国際線の直行便が増えたことから、1月以降のインバウンド需要の伸びを期待している。主要なスキー場の宿泊予約が前年を上回っているとの情報があることもプラスである。ただし、地域によってはオーバーツーリズムの影響が出てくることも懸念される。
	○	タクシー運転手	・前年よりも乗務員が60人ほど増えており、年末まであと10人程度が入社予定である。乗務員の増加に伴ってタクシーの稼働台数も増えることから、これから年末にかけての繁忙期には前年を大きく上回る売上となることが期待できる。
	○	タクシー運転手	・これから忘年会などで人流の増える時期となるため、景気が良くならなければ困る。ただし、最近の客の動きをみると、都市部のような夜間の人出は余りなく、夜遅くまで飲食店を利用するような風潮もなくなっているため、一抹の不安を抱いている。
	○	美容室（経営者）	・年末年始を迎えて、景気が良くなることを期待している。
	□	商店街（代表者）	・今後については、道内客、道外客、外国人にかかわらず、観光客の少ない時期であり、周辺住民の外出控えも顕著な時期となる。多くの業種で売上を伸ばすような要因が見当たらないことから、今後も景気は変わらない。
	□	商店街（代表者）	・忘年会の予約が前年よりも早くなっているなど、好調な兆しがかげえる。景気が安定していることで、年末商戦への期待が高まっている。
	□	百貨店（売場主任）	・当地のホテル数が増加していることから、インバウンドの増加を期待している。冬のボーナスが増加見通しであることもプラスである。ただし、プラスの影響が生じるのは一定の客層に限られるため、全体としては現状のトレンドが続くことになる。
	□	スーパー（店長）	・政局が変化していることで、先行きへの不透明感が増しており、今後しばらくは消費が大きく上向くことはないと思われる。
□	コンビニ（エリア担当）	・売上を大きく伸ばすことは難しいものの、常連客の利用を維持していくことで、現状と同様の売上を維持できるとみられる。	
□	コンビニ（エリア担当）	・値上げの動きは落ち着いてきたものの、客の購買にはつながっていない。今後は価格競争が激化することが懸念される。	
□	衣料品専門店（経営者）	・円安が続き、物価高が収まらないことから、客の財布のひもは固いままである。今後もこうした状況は変わらない。	

□	衣料品専門店（エリア担当）	・必要な物については、今後も客の消費行動が変わらないとみられる。
□	家電量販店（経営者）	・暖房器具などの季節商材は例年並みの売上で推移しているものの、テレビの売上が伸び悩んでいることから、全体的な売上は横ばいで推移することになる。
□	乗用車販売店（従業員）	・売上は前年並みとなっており、冬のボーナスも前年並みの水準が見込まれる。同様の企業が多いとみられるため、今後も景気は変わらない。
□	乗用車販売店（従業員）	・新車の販売台数をみると、ここ数か月やや悪い状況が続いている。今後に向けての好材料も見当たらないことから、景気は変わらない。
□	自動車備品販売店（店長）	・消費する物全ての価格が高騰している一方で、所得が大きく変わっていないことから、今後の景気が良くなることは考えにくい。売上が増加しているように見えても、物価高の影響で消費額が増えているだけと考えることができるため、消費者の買物の内容で判断することが重要になっている。
□	その他専門店〔造花〕（店長）	・季節の変わり目ということもあって、ここ最近の客の動向に変化がみられない。そのため、今後も景気は変わらない。
□	高級レストラン（スタッフ）	・人手不足の影響が大きく、売上が減少していることから、今後も景気は変わらない。
□	スナック（経営者）	・今後も景気は余り変わらない。ただし、11月に入り、12月の予約が多少入り始めているため、良くなることを期待したい。
□	観光型ホテル（経営者）	・国内外からの団体客の動きが鈍くなっていることから、今後も景気は変わらない。
□	観光型ホテル（スタッフ）	・宿泊や宴会場の予約状況から、今後も現状と同水準での推移が見込まれる。
□	タクシー運転手	・今後の予約状況をみると、前年と比較してそれほど変化がみられないことから、来客数も前年並みで推移することになる。
□	通信会社（企画担当）	・状況が大きく変わるような新サービス、価格、通信端末がないこと、ここ最近の客の様子が変わっていないことから、今後しばらくは現状と同様の競争環境が続くことになる。
□	観光名所（従業員）	・11月が好調すぎたこともあって、先行きを見通しづらい面もあるものの、今のところ、プラス要因もマイナス要因も特に見当たらないことから、このままの状況で推移する。
□	美容室（経営者）	・11月から技術料金を値上げしたことで、スタッフの給与を上げることができた。これからも技術料金とスタッフの給与を連動させていくことが必要なため、利益は変わらないまま推移することになる。
□	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・今後、冬季においては、天候の影響による欠航が増えることになる。また、冬季を迎えて、観光客の減少が続くとみられるため、今後も景気は変わらない。
□	住宅販売会社（経営者）	・円安に加えて、人件費の高騰などで建築コストは引き続き高止まりしている。金利が下がる状況にもないため、引き続き住宅建築は厳しい状況が続くことになる。
□	住宅販売会社（従業員）	・マンション価格が上昇していることで、購入可能な客層が限られることになるため、今後も厳しいまま変わらない。
▲	商店街（代表者）	・客の行動から、景気が上向いているとは考えにくい。少数与党となって政権運営が難しくなっていることもマイナスである。
▲	スーパー（店長）	・家計のエンゲル係数が高くなっている。暮らしていくことを優先して、その他のことに金を回す余裕がなくなっていることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	スーパー（企画担当）	・新米が出回って以降も米の価格が前年並みの水準に戻っていないなど、物価水準は総じて上昇を続けていることから、当面消費が上向くとは考えにくい。価格競争が激しくなっていることもマイナスである。
▲	スーパー（企画担当）	・今後も物価が高止まりしたまま推移することになれば、年末年始を除き、客の買い控えが顕著に表れることになる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・3か月連続で来客数が減少していることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・商品価格が高騰していることが、客の購買意欲や購買頻度に影響を与えているため、今後も景気は変わらない。

▲	乗用車販売店（経営者）	・公共料金が下がらないことが景気の悪さの大きな要因となっている。特に電気料金、燃料価格が高騰していることで、客の消費行動にブレーキが掛かっていることから、今後の景気はやや悪くなる。	
▲	乗用車販売店（従業員）	・12月は客の消費が別の商材に向かうため、車の販売が落ち込む時期であり、当社の売上目標も低くなる。特に今年は、例年と比べて車に金を使わない状況がみられることから、今後の景気はやや悪くなる。例年どおりであれば、1月以降は決算期に向かって売上が伸びていくことになるが、寒くなればなるほど来場者も少なくなるため、売上が落ち込むことも懸念される。	
▲	住関連専門店（役員）	・米の価格が前年と比べて1.5倍以上値上がりしていることから、今後は買い控えが強まることになる。客の購買意欲もますます低下するとみられることから、景気はやや悪くなる。	
▲	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・最近の天候の変化が極端すぎるため、高齢の客が多い当店においては、客の来店動向が読めなくなっている。当店では無料配送も行っているが、対応には限界があるため、今後の景気はやや悪くなる。	
▲	高級レストラン（スタッフ）	・12月の予約状況が芳しくない。外食控えが進んでいることもあって、好況には程遠い状況であり、今後の景気はやや悪くなる。ただし、今後の国の経済対策によっては景気が上向くことも考えられる。	
▲	高級レストラン（スタッフ）	・今後については、特に大きなイベントもないため、集客は余り期待できない。年末年始以外の来客数は減少すると見込まれる。	
▲	旅行代理店（従業員）	・現状の物価高が収まるような兆しはない。また、収入の増加が物価上昇に追い付いていないことから、旅行などの娯楽需要が上向くとは考えにくい。	
▲	旅行代理店（従業員）	・北海道では元々海外渡航率が低く、円安、燃油高、物価高などのマイナス要因に加えて、海外の政情不安、米国の政権交代などの影響も懸念されることから、海外旅行の回復は見込めない。海外旅行の落ち込み分を国内旅行でカバーしたいが、国内旅行については、インバウンド需要の増加により、希望の予約がなかなか取れないことが懸念される。これらのことから、今後の景気はやや悪くなる。	
▲	旅行代理店（従業員）	・食品、エネルギーを始めとした物価の上昇が続いていることで、余暇、レジャーに掛ける費用が少なくなっており、旅行マインドが減退している。物価の上昇はいまだに続いていることから、今後の景気はやや悪くなる。	
▲	タクシー運転手	・物価の上昇が落ち着いた限り、景気は変わらない。	
▲	美容室（経営者）	・年末という季節要因による一時的な売上増加は見込めるものの、景気が上向くとまではいえない。物価上昇による圧迫感が客足を鈍らせている面もあるため、今後の売上は前年よりも減少することになる。	
▲	美容室（経営者）	・最低賃金が上がったことで、今後の経営環境はますます厳しくなる。	
▲	住宅販売会社（経営者）	・分譲マンションの価格上昇に所得の増加が追い付いていないことから、市場が縮小しており、今後も同様の傾向が続くことになる。建築費の過度なインフレを抑制する政策が打ち出されることを期待している。	
×	スーパー（店長）	・国の経済対策が不透明なことから、今後の景気は悪くなる。	
×	スーパー（店長）	・これから冬を迎えて、灯油を始め、いろいろな物に金が掛かることになるため、必要最小限の物だけを買う状況になるとみられる。	
×	衣料品専門店（店長）	・暗い話題の報道ばかりなこともあって、客の購買意欲が上向いてこない。年末になれば多少は明るい話題が増えるかもしれないが、一時的な動きにとどまるとみられるため、今後の景気は悪くなる。	
×	タクシー運転手	・年末年始を迎えて、年間で最大の繁忙期を迎えることになるが、今年のこれまでの状況から、個人の利用も企業の利用も期待できない。	
企業	◎	—	—

動向 関連  (北海道)	○	食料品製造業（従業員）	・卸売業者に取引条件を提示するようになってから販売量が伸びている。ただし、3か月後には効果が一巡することから、販売量は前年並みになると見込まれる。一方、本州の安売り量販店が北海道に進出しており、その対策として、当社の商品の取扱量が増えることを期待している。
	○	通信業（営業担当）	・インバウンド及び国内観光客の入込数が大きく増加している。観光関連や小売業の好調さが他業種にも波及することで、今後の景況感は一層向上と見込まれる。
	○	金融業（従業員）	・国のエネルギー価格に対する支援が1月から再開されること、年度末に向けて物価上昇の鈍化が見込まれることから、今後、消費者のマインドが改善し、景気はやや良くなる。
	○	司法書士	・不動産売買、新築、リフォームなどに関する登記の引き合いが増加傾向にあることから、今後の景気はやや良くなる。周りの同業者も不動産登記業務で忙しそうにしている。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・今後も建設投資は堅調に推移すると見込まれる。
	○	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・販売価格の値上げや大型案件の受注などで、今後の売上は前年を6%ほど上回ると見込んでいる。ただし、市場全般の動きはまだ良いとはいえない状況にある。
	□	食料品製造業（従業員）	・年度末までこれまでと同様の状況で推移するとみられる。
	□	建設業（従業員）	・今後も建築費の上昇傾向は変わらないことから、景気は年単位の長いスパンで変わることになり、急に景気が変わることはない。投資を行っている発注者は、建築費が上がり続けることを前提にしている。
	□	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・採用環境が厳しく、案件があっても受注することができない状況にある。そのため、今後も景気は変わらない。
	▲	農林水産業（経営者）	・全体的に果物の収穫量が少なくなっている。りんごは収穫量が大きく落ち込んだ前年よりも悪くなる可能性があることから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	金属製品製造業（従業員）	・新築戸建ての住宅着工戸数が前年に続き落ち込んでいる。今後も回復する兆しが見当たらないことから、景気はやや悪くなる。
	▲	建設業（経営者）	・年度末に向けて完工高が積み上がっていくことになるものの、季節要因で工事の稼働量は大きく下がることになる。公共工事は2月頃からゼロ国債工事の発注が始まるが、工事の着手はゴールデンウィーク明けになることが多く、それまでは作業の準備期間となる。建築民間工事は雪解け後に順次着工が始まることになる。これらのことから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	建設業（役員）	・少数与党になったことでの政権運営の不安定化、米国の政権交代が国内景気にマイナスの影響を与えることを懸念している。国土強靱化のための公共投資予算が十分に確保できるのか、物価高や景気の先行き不安の影響で民間設備投資が減少するのではないかなど、受注減少に直結しかねない不安要素があり、今後、建設業界に大きなダメージが生じる懸念がある。
	▲	輸送業（支店長）	・冬を迎えて、国内からの移入量が落ち込むことになり、売上及び利益が減少すると見込まれる。現場作業員の採用についても厳しい状態が続くと見込まれる。
	▲	司法書士	・ウクライナやイスラエルの情勢が落ち着かない限り、景気が上向くことはない。米国の動向も気掛かりである。
雇用 関連  (北海道)	×	—	—
	◎	—	—
	○	—	—
□	人材派遣会社（社員）	・中途採用の有効求人倍率が高止まりしていることから、当面、企業の採用意欲の高い状態が続くことになる。営業系の人材ニーズに加えて、社内体制見直しのための管理系の人材ニーズも高まっていることから、企業が景気に左右されない組織作りに動き出していることがうかがえる。各企業の業績が3か月前を大きく下回っているような話も少ないことから、今後も景気は堅調に推移することになる。	

<input type="checkbox"/>	求人情報誌製作会社（編集者）	・中途採用の労働市場において、中小企業や個人の飲食店の人材確保が難しくなっている。地方では若年層の働き手確保が大きな課題となっている。
<input type="checkbox"/>	求人情報誌製作会社（編集者）	・年末商戦に向けて短期の人材募集が増加することを期待したいが、DX化や省人化、スキマバイトの活用などで対応する企業が多く、積極的な募集活動がみられない。
<input type="checkbox"/>	求人情報誌製作会社（編集者）	・観光客の回復などにより経済が動いている一方で、円安や物価高の影響が根強いことから、景気が上向くとは考えにくい。どちらかといえば、景気が下向きになる心配がある。
<input type="checkbox"/>	求人情報誌製作会社（編集者）	・地域に元気がなく、今は底に近い状態とみられる。今後の景気が上向くような要因も見当たらない。
<input type="checkbox"/>	職業安定所（職員）	・当地における新規求人数は前年比マイナス8.7%と3か月連続で減少しており、月間有効求人数は19か月連続で前年を下回っている。産業や業種によってその度合いは異なっているものの、今後の物価上昇の状況によっては、経済活動、消費行動が先を見通せない状態となることも懸念される。
<input type="checkbox"/>	職業安定所（職員）	・新規求職申込件数は増加しているものの、一時的な要因によるものである。また、新規求人数は減少が続いているものの、特殊要因によるものであり、求人数の減少が景気の悪化に直結しているとはいえない状況にある。これらのことから、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	学校〔大学〕（就職担当）	・今後も人手不足の状況は変わらない。
<input checked="" type="checkbox"/>	*	*
<input checked="" type="checkbox"/>	—	—